

# 愛媛未来づくり協働提案事業報告

速に共有することで、「元の飼い主さがし」をしながら、次段階の「犬・猫の健康管理」へスムーズに移行し、さらに「仲介者譲渡」の制度を利用して、新たな飼い主さんへつなぐ、、、という連携マニュアルをつくりました。このマニュアルがうまく運用できれば、たくさんの命が救われる！そう考え、多くのボランティアさんの力を借りながら、マニュアルの実証が始まりました。

実際に開始すると、郊外町村では犬猫の一時保護施設の整備や世話が行き届いていないという実態を知ったり、引取りを求める住民への対応に行政窓口が苦慮している現状などを知ることができました。

行政窓口との温度差に、はがゆい思いをすることもありましたが、話し合いながら確認しながら事業を進めていきました。砥部町と松山を何度往復したのでしょうか。10月から3月までの半年間で、作成したマニュアルに基づき、砥部町窓口で引き取られた犬1頭、猫14匹を当会で一時保護しました。補助金によって、健康診断や駆虫、可能であれば不妊去勢手術を行ったうえで、成長や体調・性格を見極めながら、町内外での里親探し会に参加させたりしました。

その結果、猫11匹については年度内に新しい飼い主に譲渡し、年度を明けてではありませんでしたが、犬1頭と猫1匹の譲渡も決まりました。

譲渡会は、砥部町中央公民館でも行いました。初めての会場で、保護主さんにも大変な思いをさせてしまいましたが、里親探し会には多くの町民が足を運んで下さり、公的な施設で開催する譲渡会の信用度の高さを実感するものでもありました。



保護犬「陶子」



砥部町中央公民館での里親さがし会

事業を終え、膨大な量の関係書類を整理しながら半年をふりかえりました。悔やまれてならないのが、マニュアル運用初期段階、連絡がスムーズに行われず、残念ながら2匹の猫が殺処分されてしまったことです。救えるはずだった命なのに、、、その強い悔しさが、「殺処分0は必ず実現できることを砥部町で証明する！」という原動力になりました。

上記の2匹以外は、協働事業を始めてからは砥部町は犬猫殺処分数ゼロが達成できました。

行政が「従来のやりかた」を変えるのは、とても難しいことだとわかります。でも、今回の事業で「保護犬猫情報を砥部町ホームページと動物愛護センターホームページの両方で掲載する」という、たったひとつの変化により、犬3頭が元の飼い主に無事に返還され、命の行く末を大きく左右することになるのです。

保護や移送にかかる労力・費用の大きさなども明らかになりましたが、関係機関の円滑な連携により、犬猫の健康状態が維持でき、里親さがしの機会拡大へとつながることが確認できました。いくらかの費用があれば、一時保護所を整備し、犬猫の健康状態を格段に良好に保つことが可能になります。

10月からの短い事業実施期間であったため、関係機関の連携体制構築が荒ただしく、ようやく整備できたところでの事業終了となるのが大変残念です。現在、何らかの方法で、本事業を継続できないか、関係機関と協議しています。

行政がマニュアルを変え、住民が意識を変え、ボランティアとして保護や譲渡に協力し、、、そうすることができれば、どの地域でも、「殺処分0」を実現することが可能です。一日も早い「殺処分0」実現のために、各地で協働の芽が育つよう、これからも働きかけていきたいと思います！